

# 国語 授業づくり講座

## in 香南市立野市小学校

授業をアップデート！  
生きて働く学びを創る！

東部管内の講座情報

令和4年11月発行  
東部教育事務所

学びの道を笑顔から



**学年** : 第3学年  
**単元名** : 「うん動会のおん内じょうを書こう」  
**学習材** : 「案内の手紙を書こう」(東京書籍)  
**単元の目標**: 丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くことができる。

**【知識及び技能(1)キ】**  
 間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりして、文や文章を整えることができる。

**【思考力、判断、表現力等(1)エ】**  
 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。

**【学びに向かう力、人間性等】**  
**言語活動** : 身近な人を招待するために運動会の案内状を書く



授業者  
尾知 寿信 教諭

単元づくりから工夫をしましたが、実際に授業をしてみると、難しさを実感しました。子供主体で単元を考えないといけないことを改めて理解することができました。

### 教材研究会(8月30日)

**単元構成の工夫**

- 導入におけるモデルの提示**  
三人の先生の書いたそれぞれの手紙の例を提示し、よいものを選んだり、その理由を考えたりする。また、三種類の手紙を比較することで書き方の違いに気付くことができるようにする。
- 「推敲」の場面での自己決定**  
見直しの視点を二点(大事なことが書けているか、来てもらいたいという気持ちが書けているか)に絞り、前時までの学習を基に自ら考えてチェックすることで、主体的な学びにつながるようにする。
- 「共有」場面の意図の設定**  
今年度の学力調査結果の課題であった「共有」での自分の文章のよいところを見付けることを単元末の振り返りの視点で設定する。

◇協議の視点◇

- この単元で付けたい力にせまる単元構成になっているか。
  - 相手意識、目的意識が明確で題材の「運動会」というのも児童にとって身近なことである。
  - 書きたいことの中心を明確にする力が弱いという学級の実態があるので「情報の収集、内容の検討」に重点を置いてはどうだろうか。
- 本時における言語活動は最適か。
  - 見直しの視点の「大事なこと」は児童全体で共通認識をしておいた方がよい。
  - 学習活動が少し多いので、付けたい力に絞って焦点化した方がよい。

題材の設定	情報の収集、内容の検討	構成の検討、考えの形成、記述	推敲、共有
・学習の見直しを持つ力	・相手や目的を意識して必要な事柄を集める力 ・集めた事柄から伝えたいことを選ぶ力	・文章の構成を考える力	・文章を読み返して正す力 ・文章に対する感想を伝え合う力
1. 単元のゴールと学習の流れを確認する。 ・教師が作成した三種類のモデルを見て気付いたことを基に「案内状の書き方」のポイントを見付ける。	2. (1) 案内状を書く相手を決め、必要な事柄や伝えたい気持ちなどを考え、メモに整理する。 (2) 整理したメモを基に相手を意識して、手紙に書く内容や事柄の順序を考える。	3. メモを基に相手を意識して、丁寧な言葉遣いで下書きする。 【知・技(1)キ】	4. 相手を意識して、下書きを読み返し、間違いを正して、清書する。 【思・判・表B(1)エ】本時4/6 5. あて名書きをする。 【思・判・表B(1)エ】 6. 相手を意識して、書いた手紙を読み合い、感想を伝え合う。 ・振り返りをする。【主】

### 授業研究会(9月21日)

教材研究会を受けての変更点

○本時における学習活動の焦点化  
→1時間では終わらないと予想されることから、学習活動を推敲と共有に絞り、清書と宛名書きについては、次時に行うようにする。

○「推敲」における見直しの視点の捉え方について  
→本時までの学習過程で、見直しの視点の「大事なこと」や「来てもらいたい気持ち」について具体的にどんなことを押さえておき、本時では前時までの学習を基に確認するようにする。

教師が作成したモデルの提示

一人での見直しが難しい児童には、見直しの視点のチェック表を見ながら、大事なことや来てもらいたい気持ちが書けているかを確認している。

友だちの書いた下書きを見て、よいところや直したらよいところを付箋に書いている。

前時までの学びを基に確認して、明示化

言葉による見方・考え方を働かせるために捉えさせたい関係付けの例

※自分で気付いたことや友達のアドバイスを基に、案内状の下書きを見直しましょう。

言葉

○案内状の下書き  
・お元気ですか。  
・見に来てね。  
・百メートル走をがんばる。

お父さんに手紙を出すのにお元気ですかはおかしいな。百メートル走に力を入れているのはお父さんは知っているから、見てほしい気持ちがあるように書く。

言葉

○見直しの視点、アドバイス  
・いつもお仕事ご苦労さまです。  
・ぜひ、運動会を見に来てください。  
・毎日走る練習をがんばったので、百メートル走を注目して見てほしい。

見方・考え方を働かせる手帳

・見直しの視点やチェック表、友達のアドバイスなどを基に、下書きした案内状を見直している姿。

◇協議の視点◇

- 本時における言語活動は最適であったか。
  - 見直しの視点における「大事な言葉」を全体で確認したこと、どの児童も見直しをすることができていた。
  - 書く相手は家の人がほとんどであったので、大事なことについてはもっと絞った方がよかった。
- 本時の付けたい力(資質・能力)が付いたか。
  - 見直しの視点を基に、文章に線を引く、修正したり加筆したりすることができていた。また、考えにくい児童にはチェックシートを渡したことで、確認しながら自分で見直しができていた。
  - 見直しの視点が曖昧であり、推敲することの価値を感じられていない児童もいたのではないかと。

### 講師による助言・講話 文部科学省 教科調査官 大塚 健太郎 氏



○3つの資質・能力の関係

学習指導要領が目指す「学びに向かう力、人間性等」、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」をバランスよく育むことが求められている。自転車で例えるなら、ハンドルが「学びに向かう力、人間性等」であり、両輪が「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」となり、どれが欠けても動くことができない。

○単元づくりにおける指導事項の確認

どの指導事項に重点を置くのかを明確にして、単元をつくるのが重要である。「運動会の案内状を書く」という実際の場面での言語活動を設定した場合、教科書で示されている指導事項を重点にすると児童にやや無理が生じてしまうことが考えられる。この指導事項で本当によいのか、また指導事項のどこに軸足を置くのかについて単元をつくる際に、吟味し考えていくことが大切である。

○児童の視点からの授業づくり

「児童が何を学んでいるか」という視点で、授業をつくっていくことが大事である。案内状を書く相手は家の人が多かったが、その場合の「大事なこと」とは、子供が一番考えたいことであり、日時や場所ではなく、運動会の内容のことになる。相手にどんな情報を伝えたら喜ぶか、来られない人にも思いが伝わるかという視点で書くようにする。また、平仮名よりも漢字で書いた方が相手(大人の場合)にとって読みやすくなることなど、児童自身が推敲することの意味を実感して理解することにより主体的な学びにつながっていく。

～参加者の声(リフレクションシートより)～

- 学習指導要領の指導事項と学習材の特性や価値の整合性を明らかにした上で、単元を構想することの再確認ができた。
- 授業を考える際、まずは、きちんと指導事項を確認すること、そして自身で考えた授業を見つめ直し、資質・能力を身に付けられるかの確認をしていくなど、日常の授業においても行っていきたい。
- 付けたい力を明確にして、そこに迫るための工夫について考えることができた。また、児童の思考の流れでどのように授業をつくっていくのかが理解できたので、授業を考える時にも意識していきたい。

**Check!!** 次回 第2回授業研究会 11月29日(火)  
第2学年 単元名『ありがとう』を手紙でつたえよう